

愛媛大学

平成23年度土木海洋会だより

— 第17号 —



Mine Engineering
Civil Engineering
Ocean Engineering
Civil & Ocean Engineering
Civil & Environmental Engineering

目 次

ごあいさつ	(会 長 河野 徹 土木42年卒).....	1
学科だより	(副会長 環境建設工学コース長 岡村 未対).....	2
新任教員の挨拶	(准 教 授 羽鳥 剛史).....	4
	(講 師 吉江 直樹).....	5
	(助 教 全 邦釘).....	7
	(助 教 高山 雄貴).....	8
支部だより	(関東支部幹事長 黒坂 佳司 海洋57年卒).....	9
	(近 畿 支 部 荒柴 敏夫 土木48年卒).....	10
	(中 国 支 部 長 新宮 勝哉 土木42年卒).....	12
	(愛 媛 支 部 長 玉井 良二 土木54年卒	
	副支部長 高橋 正雄 海洋55年卒	
	幹事長 白石 誠 土海11年卒).....	13
同窓会報告	(河原莊一郎 海洋57年卒).....	15
	(大谷 淳二・中岡 浩三 海洋58年卒).....	16
	(河野 徹 土木42年卒).....	17
平成23年度総会報告		19
会計報告		21
事務局だより		23

巻 頭 緒 言

会長 河野 徹（土木42年卒）



この度の東日本大震災に際し、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様方には心よりお見舞い申し上げます。地球上の14のプレートの内、4枚のプレートの境界部、いわゆる地震の巣の上に我が国の国土は位置します。そのため世界中の地震の1割、巨大地震の2割が日本近郊で発生しています。何処かの国の総理大臣の間違いであって欲しい『未曾有』、『想定外』という言葉も最近よく耳にします。今後、確実に予想される東海、東南海、南海の地震と津波、首都直下型の地震、富士山の噴火など地震災害が活動期に入ると言われています。何れの災害も今回の東日本大震災の被害額の2～4倍とも想定され、その確率は交通事故で死亡する確率の300倍、空き巣に入られる確率の20倍と言えぱおよそ想像がつくでしょう。

経済の方も昨今は戦後最高の円高となり、T P P参加問題と相まって加工貿易国の日本は窮地に追いやられています。日本が好況故の円高ではなく、アメリカ、ヨーロッパの更なる信用不安による相対的なもののようです。E Uで3カ国目の財政危機を迎えているポルトガルは日本と同じ加工貿易国です。今から約250年前のリスボン大震災で当時の3割から5割のG D Pが失われたと言っていますが、その約250年前、即ち今から500年前はトルデシリヤス条約でヨーロッパを除く世界をスペインと共に分割支配する国でした。このポルトガルは震災以降250年の間凋落し続けています。一方、日本は第二次世界大戦後の65年間大きな自然災害に見舞われる事が少なかった事もあり、高度成長を遂げたのですが、今後は自然災害の活動期に入ったと言う説もあるようです。

一方世界人口に目を向ければ、今年の10月末には70億人を突破し、2025年には80億人、2050年には90億人に達する予測であります。穀物生産量から許容人口を計算すると80億人が限度と報告されており、世界的な食料不安も払拭できず、明るい話題の少ない今日この頃です。

我々に関連する土木学会、技術士会等その活性化を図るところですが、容易には進捗していない様子です。その集まり（会）の存在意義も会相互の親睦と学問の発展に寄与するだけの目的では存在価値も低くなっています。存在価値は与えられるものではなく、会員が積極的に会に参加して会を企画運営する事に意義を見出すこ

とも大事であると考えます。混沌としたこの時代、ハードでの対策は限界があるかもしれませんが、会員相互の情報交換を密にしてソフトでの対応は無限です。それを皆様と一緒に解決したいものです。今後、愛媛大学土木海洋会会員の皆様が積極的に同窓会に参加され活動されます事を切にお願いし、冒頭の挨拶とさせていただきます。

学科だより

学科だより

副会長 環境建設工学コース長
岡村 未対

愛媛大学環境建設工学科では、これまでものを作る技術を中心とした教育を行ってきましたが、自然・社会環境の維持・創出という大きな枠の中で、これと密接に結びついた技術体系としての土木を理解し、国際感覚を持った技術者の教育を行うことを目指した教育プログラムへと転換を図っています。その一つが、平成23年度から「土木工学コース」と「社会デザインコース」の2コース制による教育です。詳細については学科のホームページ等に譲ることとしますが、「Civil Engineering」の名の通り、土木の仕事は技術者だけのものではなく、本来は社会で暮らす市民との協働によって成り立つものであることから、「社会デザインコース」では文系の学生をも受け入れ社会学との境界領域に積極的に立ち入る教育プログラムを提供するものです。教育の内容を変えると共に、理系に限定せずに優秀な人材を集めることを目的としたものです。社会デザインコースの1期生は、期待に反さず、およそ半数が高校時代に文系の学生で、またおよそ半数が女子学生です。土木工学コースの学生とも刺激を与え合わせながら彼らの特長を伸ばしてゆくのが教員一同の使命です。

二つ目は交換留学生制度の開始です。我が国の土木工学分野は、国内市場の大幅な縮小もあいまって、国際化の色彩を強めています。環境建設工学科の学生への留学機会の提供や留学生等に魅力的な教育の提供とともに、留学生と切磋琢磨し刺激を与え合う環境の中で人材の養成を図ることは重要です。そこで平成23年度から、我が環境建設工学科と韓国蔚山大学土木工学部（韓国の大学の学部は日本の学科に

相当)との間で交換留学を開始しました。プログラムは、1、2年生を対象とした夏休みの3週間の留学と、3年生以上を対象とした、半年間の留学です。ちまたでは若者の内向きさが取り沙汰されておりますが、4月に留学の説明会と募集を行ったところ、20名近くの学生からの応募があり、我が学科の学生も捨てたものではないと担当教員は大いに喜びました。3週間の留学コースには選抜した3名の学生を送り、また半年間のコースには、3名の3年生が現在蔚山大学で勉強中です。逆に韓国からは2名の学生が環境建設工学科で勉強をしています。今後は渡航先と留学生の人数を拡大させ、留学が身近なものである雰囲気醸造してゆきます。

さて、本年3月には東日本大震災が発生しました。環境建設工学科では、学生に被災地に立たせ、被災者・被災地の人と話し、災害に強い社会を創るための、真の社会基盤のあり方を考えられる人材を育てたいとの思いから、「学生災害支援・調査隊派遣事業」を行い、合計36名の学生を7月の2週間に亘り現地に派遣しました。派遣された学生は、厳しいながらも貴重な現地の体験を通じて大きく成長しました。今後も様々な機会を捉え、学生の教育には一層力を注ぎたいと思っております。

最後になりますが、環境建設工学科およびその前身の学科で築き上げてきた経験と活力をさらに発展させることが出来るよう、教職員一同精一杯努力する所存です。卒業生の皆様を始め多くの方々のご支援とご指導ご鞭撻をお願い致します。



2011.5朝霧湖マラソン(西予市)にて
(左:筆者、中:安原准教授、右:陣内職員)



遠心载荷実験の様子

着任のご挨拶

環境建設工学科

准教授 羽鳥 剛史



皆様、はじめまして。このたび、環境建設工学科に着任いたしました羽鳥剛史と申します。私は、平成18年に京都大学都市社会学専攻を卒業し、その後、東京工業大学土木工学専攻に助教として5年間在籍し、今年度4月より愛媛大学に参りました。着任後、半年が経過しましたが、先生方や事務の方々には日頃より何かとお世話になり、お陰様で楽しく日々を過ごしております。まずはこの場をお借りして、皆様に感謝申し上げたいと思います。ありがとうございます。

私は、本学科にて「社会マネジメント研究室」という新しい研究室を持っております。研究室の学生は四回生3名。今年は総勢4名体制と少人数ですが、少人数ならではの団結力とアットホームな雰囲気を感じ、日々の研究活動に励んでいます。

社会マネジメント研究室は「社会」を対象としております。「良き社会とは何か」を考えて、その実現に向けて、国土・地域政策のあり方を提案する一大雑把に言えば、それが当研究室の基本的な使命であると考えています。

「良い社会とは何か」、この問題は、極めてシンプルながら、古くはソクラテスが「洞窟の比喩」を用いて考えたように、およそ人知の及び得ない途方もない難問です。しかし、そうであるからといって、「良い社会なんて分からない!」「人によって様々だからそんなものはない!」と諦めていては、「良い社会」は一向に見えてきません。一方、「これが良い社会に違いない!」「俺の意見が絶対に正しい!」と確信した瞬間、その考えは往々にして固定観念へと変わり、「良い社会」のヴィジョンは遠退いてしまいます。この問題は、具体的な社会の場に身を置きながら、「良い社会とは何か」を巡り、確信と懐疑を無限に繰り返す中で、ようやくその答えへの糸口が臍げに見えてくるような問題ではないかと思います。社会マネジメント研究室では、社会心理学、経済学、政治哲学など、社会科学全般を学びながら、甚だ微力ながらも、いや微力だからこそ、この問題を巡る無限の精神活動を実践し、より良い社会の実現に向けた方途を探っていきたいと思います。当研究室がそうした実践の場となればと意気込んでおります。

もちろん、「良い社会とは何か」という問題は、机の上で一人考えているだけでは分かり得ません。私は大街道近辺をフラフラと飲み歩くことが好きです。これからいろいろな経験を積みながら、日々精進して参りたいと思います。

まだまだ未熟者ですが、今後とも、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

観測とモデリングの融合による新しい海洋学を目指して

沿岸環境科学研究センター環境動態解析部門

講師 吉江 直樹



私は、平成21年4月から愛媛大学沿岸環境科学研究センターの特任助教として、平成23年4月1日からは講師として研究教育活動を行っております。

これまでの研究としては、博士課程までは、北海道大学水産学部にて現場観測と室内実験を通して西部北太平洋亜寒帯域の生態系構造や基礎生産力について研究を行い、博士課程以降は、北海道大学大学院地球環境科学研究科にて複雑な生態系・物質循環のメカニズム解明を目指し数値モデルによる解析を行ってきました。モデルによる研究は現実とかけ離れた仮想的なものになりやすいのですが、ポスドク以降は（北海道大学、水産総合研究センター東北区水産研究所、愛媛大学）、観測とモデリングの密な連携を通してそのギャップを埋めながら実効性の高い研究を進めてきました。

愛媛大学へ赴任後の2年半の間には、沿岸環境の代表ともいえる瀬戸内海を研究対象として、様々な環境変化に対する生態系応答の解明につながる研究を行ってきました。具体的には、漁業生産性が高く、急潮現象（外洋の黒潮系暖水が突発的に沿岸域に侵入する現象、水温が一日に5℃急上昇する場合もある）の影響を強く受け、包括的な観測データが極めて少ない西部瀬戸内海（伊予灘・豊後水道）において、プランクトンおよび栄養塩の季節変化と空間分布を毎月の高頻度・広域観測により初めて明らかにしました（図1）。そして、海洋生態系モデルを用いてそれらを高精度に再現することにも成功しています（図2）。また、昨年と今年の夏には、豊後水道において約一ヶ月間にわたる集中観測を実施し、様々なスケールの急潮現象とそれに伴う生態系・物質循環の応答を捉える事に成功いたしました。この他に、

今年度からは、東シナ海における大気海洋相互作用が海洋生態系に及ぼす影響評価や、瀬戸内海における浮遊-底生生態系結合モデルの開発、計量魚群探知機と小型水中ロボットを組み合わせた高次生態系のモニタリングなどにも着手しております。今後は、数値モデルと現場観測を密接に連携させながら、ローカルからグローバルまでのマルチスケール研究を展開し、分野横断的な新しい海洋学・環境学・生物地球化学分野を開拓してゆきたいと考えています。

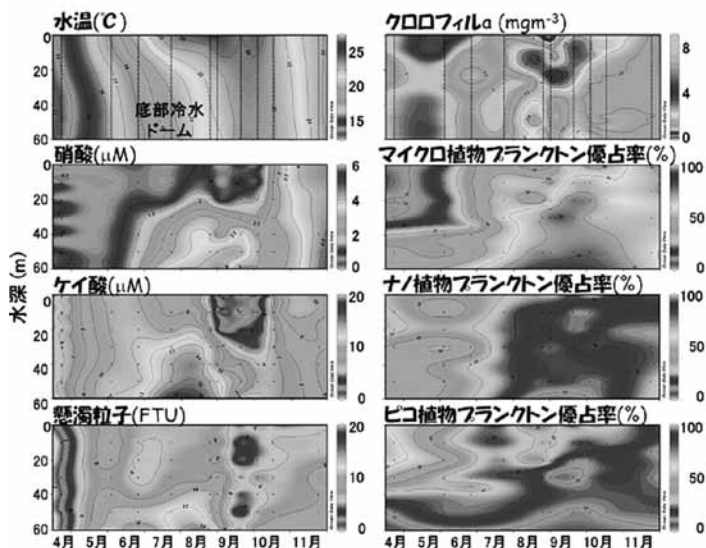


図1. 観測された伊予灘における栄養塩と植物プランクトンの時空間変化

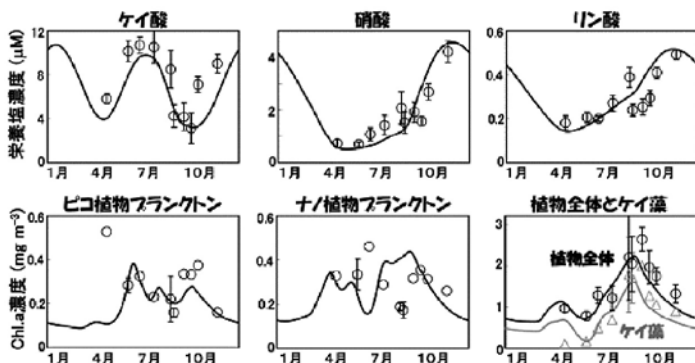


図2. 生態系モデルによりシミュレートされた伊予灘の栄養塩と植物プランクトンの季節変化 (実線: モデル結果、○と△: 観測値)

着任のご挨拶

環境建設工学科

助教 全 邦釘



昨年12月に助教として環境建設工学科に着任いたしました全 邦釘（チョン パンジョ）と申します。現在構造工学研究室に在籍しており、大賀水田生・中畑和之両先生および19人の学生と充実した研究生生活を行っております。大変素晴らしい環境でして、このような機会を与えていただき大変感謝しております。

ここで簡単に私の略歴について触れさせていただきます。私は2003年3月に東京大学工学部土木工学科を卒業し、2005年3月に東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻修士課程を修了いたしました。その後、同博士課程に進学いたしましたが、少しばかり外の空気が吸いたくなりまして、米国ミシガン州のWayne State Universityへ留学し、同大学において昨年5月に斜橋の研究でPh.D.を取得いたしました。そしてその後、愛媛大学に着任するまで韓国・ソウル市の延世大学にてResearch Associateとして職務に励んでおりました。現在は特に橋梁の維持管理手法についての研究に力を入れています。力学的な手法のみではなく、統計学的な手法、あるいはGISや画像処理といった情報利用の観点からの取り組みを行っております。

また、今年4月から授業（微分方程式・構造力学演習）も担当させていただいています。学生に理解してもらいたいことが必ずしも理解されておらず反省の思いに駆られたり、また時には学生の鋭い意見に目から鱗が落ちる思いをさせられたり、教えることの難しさや楽しさを実感しております。

さて本学科の学生についてですが、非常に優秀で素直である、しかしややもすると内向きなどところがあるといったことを研究や授業を通して感じております。愛媛や四国から離れたくない、ましてや海外なんてとんでもない、英語なんて全然わからない、そういった学生が非常に目立ちます。もちろん、愛媛や四国から離れたくないことは悪いことではありませんが、我々が望む望まないにかかわらず、日本もグローバル化の波に飲み込まれようとしております。その際に不利益を被らない程度には、「外」に接するのを怖がらない（あるいは嫌がらない）、そういった姿勢を学生には身につけて欲しいと願っております。

教員としても、研究者としても、そして愛媛大学の一員としてもキャリアが非常に浅く未熟者ではありますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

着任のご挨拶

環境建設工学科

助教 高山 雄貴



4月1日より助教として着任いたしました高山雄貴と申します。交通工学・都市環境計画研究室に所属し、吉井先生、二神先生、倉内先生、羽鳥先生のもと、学生25名とともに研究を行っています。最初に自己紹介を兼ねて、私の経歴を紹介させていただきます。出身は広島県広島市で、大学入学から修士課程を卒業するまでは宮城県仙台市におりました。2005年から3年間はJR西日本に勤め、京都の嵯峨野線（山陰本線の京都駅から嵯峨嵐山駅、亀岡駅を通して園部駅までの区間）の線路保守と複線化工事を担当

していました。その後、会社を退職するとともに東北大学大学院情報科学研究科の博士課程に入学し、今年3月に学位を取得しました。

今年度から新たに教員になるということで、教育活動のための基礎技術等を習得しつつ、まずは研究活動に力を入れています。現在は、特に、これまでの研究を進展・発展させることに取り組んでいます。博士課程では、空間経済学という分野の研究を行ってきました。空間経済学は、“なぜ人口や経済活動が空間的に集中するのか？”という疑問に取り組む経済学の一分野であり、様々な空間スケール（国・地域・都市など）での集積現象を扱っています。その中でも、私は都市に経済活動が集積するメカニズムや、現実の都市でみられる規則性が成立する要因を解明し、多様な都市問題への対処を考える際の理論的基盤を構築することを目標に、これまで研究を進めてきました。この都市集積に関する研究は、土木工学・経済学分野だけでなく、様々な分野で研究が進められている重要な課題の一つです。今後も、様々な分野の方々と連携しながら、着実に成果を積み重ねていきたいと考えています。

社会人時代の上司が愛媛大学 都市環境計画研究室のOBということもあり、ここに來たのも何かの縁だと感じています。大学を卒業して1年もたっていない未熟者ですが、環境建設工学科に貢献できるよう研究・教育に励んでいきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

関東支部だより

関東支部幹事長 黒坂 佳司（海洋57年卒）

関東支部の幹事長に就任して、はや1年以上経過しました。

その間、関東支部の会員にとって忘れることのできない3月11日の東日本大震災を直に経験し、「まさか自分自身が」と思っていた帰宅難民の一人になられた方も多かったと存じます。

東日本大震災で被害に遭われた方に、改めてお見舞い申し上げます。

関東地区は秋の訪れと共に夏場の節電モードも終わり、放射能汚染の心配を除けば震災以前の暮らしに戻ってきております。（夏の間は、夜の街や地下道が少し暗いのは直ぐに慣れましたが、ほぼ全てのエアコンの温度設定が高く何所に行っても暑かったのと、エスカレーターが数多く止められていて階段を使わなければならない事が多かったのには少々参りました！）

そのような中、春のゴルフ大会を中止した他は、少しでも会員各位の親睦と気分転換のために例年通りの行事を行っております。

平成22年度の主な活動内容は次の通りでした。

- ・ 平成22年7月 関東支部総会（参加者25名）
- ・ 同 10月 第21回ゴルフ大会（同、9名）
- ・ 同 11月 秋のレクリエーション（兼）新人歓迎会（同、9名）
- ・ 同 11月 第9号広報誌発行
- ・ 平成23年1月 新年会（同、27名）
- ・ その他、年間を通して幹事会を開催（5回）

関東支部では、毎年、愛媛大学から先生をお招きしてご講演を頂く総会を始めとして、年に2回の懇親ゴルフ大会、幅広い年齢層で楽しめるように企画している秋のレクリエーションおよび多彩な方面で活躍されているOB／OGの方にご講演をお願いしている新年会を活動の4つの柱としています。少しでも会を盛り上げていきたいと幹事一同頑張っておりますので、就職・転勤などで関東地区に転入された方は、是非、お近くの幹事もしくは私までご一報下さい。

ところで、速報です。土木海洋会のHPにも掲載して頂きました昨年大好評の「秋のレクリエーション・猿島バーベキュー大会」は、生憎の終日雨の予報のため、「横

須賀軍港めぐり」に急遽予定を変更したにもかかわらずH23年10月22日(土)に18名もの方の参加で無事に開催致しました。

しかも、皆さんの日頃の心掛けが良かったのか、朝から雨が降り続いたなか、軍港めぐりの船が棧橋を出港した途端に晴れ間が広がり、デッキ上からの護衛艦見学を満喫できました。その後は、横須賀ヴェルニ公園内のカフェレストランでランチを楽しみ、最後に三笠公園内の記念艦三笠を見学しました。



私の若いころの経験談

近畿支部 荒柴 敏夫（土木48年卒）



土木海洋会の皆様こんにちは、昭和48年に卒業いたしました荒柴敏夫と申します。今年の3月に兵庫県を退職した節目の時期もあってか「土木海洋会だより」に投稿させていただく機会をいただきました。しばらく考えて、「県庁在職時のまだ若かった頃の経験の中から印象に残るもの」をテーマにして書くことにいたしました。29歳から30歳にかけて本四公団に出向していた頃の話です。私は、神戸淡路鳴門自動車道の建設に従事することとなり、西淡三原I

Cの建設に伴う内水問題に直面いたしました。I Cが設置されている三原平野は、もともとの内水問題があるところにI C盛土の影響でさらに内水問題が助長される事態が生じていました。つまり、洗面器の中に盛土をすれば水位が上昇するのと同じことが起こる訳です。この影響で稲作水害の発生が大きくなるということで、公団がこの補償をしなければならなかったということです。この解決方法は、土地改良事業と公団の補償費により約10t/s?の排水ポンプを据え付け、このうち公団が2t/sの費用負担をするということでした。ここでの問題は、県と町は高速道路建設がなければ（寝た子を起こさなければ）今すぐに事業をしなくても済んだと思っており、事業着手の決断を躊躇していたこと、また公団は、県と町がやる気がないから県と町のせいにして補償しなくても済むのではと思っていた。つまり公団と県と町の3者がお互いに牽制し合って、これでやりましようとならないことということでした。私は、ここで一計を案じ、まず公団の事務所に「県も町もこれでやると言っている（全くのウソ）。問題が発生した一番の原因者は公団ではないか、高速道路建設がなければこんな問題は起こらなかった。公団が腹をくくらなければ高速道路建設などできるわけがない。」と強い口調で言ったところ、所長は、私に「県も町もやると言ったのか。しょうがないな。」とつぶやいたのに乗じて、私は「そうですよ、所長、今が決断の時です」と言って、了解をとった。その足ですぐに県の縦貫道対策室の参事の所に行き、参事に向かって「公団も町（まだ説得していない）もこの枠組みでやると言っている、建設促進の窓口である県が踏み切らなくてどうするのか」と言うと参事は、「そうか公団も町も決断したのか、明日県庁に行って相談してくる」と答えた。また、その足で町長の所へ行き、「公団も県（まだ答えをもらっていない）もこれでやると言っている。町長、地元役場が腹をくくらなくてどうするのか」と言ったところ、町長は、「しょうがないな、これでやるしかないか」と答えた。この数日後、西淡町の料亭で合意のための議事録を公団の工事長が5分で読み上げ3者のサインをもらいシャンシャンで終了し、あとは、仲よく宴会をして無事解決した。今まで黙っていましたが、あの時の関係者の皆様、嘘ついて申し訳ありませんでした。でも、地元の方々には納得してもらいよかったと思っています。

定年後の過ごし方

中国支部長 新宮 勝哉（土木42年卒）



63歳の誕生日を機会に退職をしました。退職して3ヶ月位は、出勤時間が来るとなんとなくそわそわして落ち着かない日々が続きましたが、いつの間にか休日が当たり前になりました。勤めている時には、退職したらあれもしたい、是もしたいと、色々と思いを巡らせていましたがいざ其の立場になるとなんとなく億劫になり、漠然と日々を過ごすようになりました。

そうした或る日、偶然に懐かしい小学校の同級生に会い四方山話をしていたところ、とても良いヒントを貰いまし

た。

彼も退職後、私と同様に何もせず漫然と日々を過していたところ、同級生に出会い、広島市農業協同組合主催の農業塾に通って農業の勉強をしないかと誘いを受け、即決して入塾したそうです。期間は1年間、講義は、毎月第1水曜日の夕方2時間と春秋の2回農園での現地研修であったとの事。入塾後、親しい仲間が出来、飲み会やグループ活動に参加して楽しい時間が過せたと、今も果樹園グループ・蕎麦園グループ・小麦園グループに属し、楽しいグループ活動に参加しているとの由。

私も其の話に興味を抱き、即、入塾の手続きを取りました。入塾対象者は、定年退職前後の農業に意欲をもたれている方が、農業の基礎知識を身に付け、卒業後に就農を目指し、J A広島市管内農業の担い手として活躍できる人々となっていました。

私の考えはJ Aの意向とは少し違っていました、運良く入塾が許可され、平成20年1月から塾生となりました。肥料の基礎知識、農薬の基礎知識に始まり、春夏秋冬に適した野菜の栽培方法について講義を受け、春と秋には農園に出向いて現地研修を受けました。

幸い我が家には先祖代々の農地が少々ありましたので、卒業を機会に耕運機を買い、畑を耕し、肥料や種を買って栽培を試みたところ、ホウレン草や春菊、水菜、小松菜、白菜、大根等は、思いの外上手に出来ました。収穫した野菜は、其の時期に、近所の人や兄弟、子供たち、日ごろ通っている老人大学の仲間達に御裾分けし、皆さんからとても喜んで頂きました。

キャベツ、セロリー、枝豆、人参、牛蒡等の手間の掛かる野菜や土壌に合わない作物は、全く収穫出来ませんでした。近所の農家の人は上手に栽培しているのになぜ出来ないのか残念に思い其の人たちに栽培方法をあれこれと聞いてみました。

理屈は理解できるのですが、実際に作ってみると思うように出来ないので、上手に栽培出来るまで 何度でも挑戦をしようと考えています。

最近、農業塾OBの飲み会に参加し、農協指導員の方々とも酒を酌み交わししながら、難しい野菜の栽培方法や、野菜に付く病害虫の駆除の仕方等の勉強をしています。

今後とも、自分の体が許す限り 自分の健康を兼ねた趣味の範囲で 農作業を進めて生きたいと考えています。

長々と取り留めのない話を綴りましたが、皆様もそれぞれに自分の生き様を文章にして寄稿くだされば、後輩達の参考になると思います。

愛媛支部活動報告

支 部 長 玉井 良二（土木54年卒）

副支部長 高橋 正雄（海洋55年卒）

幹 事 長 白石 誠（土木11年卒）

愛媛大学土木海洋会会員の皆様におかれましては、ご活躍のことと存じ上げます。また、日頃より土木海洋会愛媛支部の活動にご理解、ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。さて、土木海洋会だよりの紙面をお借りして、平成23年度の活動報告を致します。

まず事業報告ですが平成22年度は役員会をはじめとして、ゴルフコンペを2回、忘年会を開催し、多数の出席を頂きました。平成22年11月6日にサンセットヒルズカントリークラブで開催されたゴルフコンペは参加者13名で開催され、優勝は松本勝芳さん（愛媛大学）、準優勝は山田康晴支部長（当時）（土木53年卒）でした。忘年会は平成22年11月27日に伊予鉄会館において、35名の参加により行われました。皆さんの近況を報告していただき、有意義な忘年会でした。産官学の方々が気兼ねなく集える場所ですので、有意義な時間が過ごせることは間違いありません。平成23年4月30日にサンセットヒルズカントリークラブで開催されたゴルフコンペでは、10名が参加し、優勝は山田康晴さん、準優勝は氏家勲先生（愛媛大学）でした。

平成23年度は支部長、副支部長、幹事長がそれぞれ交代し、新体制で支部運営を行ってまいりますのでご協力お願いいたします。

平成23年度の事業計画につきましては、この土木海洋会だよりをご覧になるころ

には、支部総会、本部総会、第1回支部主催ゴルフコンペと忘年会は実施済みとなっていることと思います。第2回ゴルフコンペなど、今後も行事を考えておりますので、多数の方の参加を心よりお待ちしております。初心者の方も大歓迎です。また、同窓会を開催される場合には、「愛媛大学土木海洋会愛媛支部活動補助金交付要綱」に基づき、一人当たり最大3,000円の補助金を交付しますのでご利用ください。



平成22年度愛媛支部忘年会（H.22.11.27 伊予鉄会館に於いて）



ゴルフコンペ（左：H.22.11.6、右：H.23.4.30 サンセットヒルズカントリークラブに於いて）

海洋5期同期会の報告（H22.5.22）

河原莊一郎（海洋57年卒）

私たちは、昭和53年に海洋工学科に入学した者です。早く卒業した人で卒業後28年たち、若い人で50歳となりました。5月22日(土)に、12年ぶりの3回目となる同期会を松山で開催いたしました。8名が15時40分に工学部2号館前に集合し、土木海洋会幹事長の木下先生の案内で、竣工したばかりの愛大ミュージアム、えみか（土産物軽食店）、校友会館（レストラン）等を見学しました。これらの施設は地域の住民に開放されており、キャンパスが観光地になったようで何となくうれしく感じました。一方、工学部2号館はトイレがきれいになった以外はあまり変わっていませんでしたが、よくソフトボールをしたグラウンドは、ビルと駐車場に変わっていました。残念ながら、学科会議室に飾ってあった海洋工学科の卒業写真は行方不明でみることはできませんでした。

17時すぎに、ローブウェイ街を通り国際ホテル松山まで徒歩で移動しました。18時ちょっと前より国際ホテル松山にて9名の参加で宴会を催しました。28年ぶりの再会でとても懐かしく感じ、学生時代に戻ったような気がしました。「学生時代が金はなかったけど一番楽しかった」ということで一同一致しました。

ここで、今の大学では信じられない思い出話をちょっと紹介しておきます。H先生の授業はつまらない授業で有名で、あるとき2人しか出席しておらず、しかもその2名とも居眠りをしていました。当時はほとんど出席していなくても、なぜか単位は出た授業がたくさんありました。また、K先生は試験のとき「おれがおったらできんやろ。あとで学級委員が集めてわしのところへ持ってこいや」と言われて途中で教室を出ていかれました。先生の「こすれてこすれて我慢できなくなって……」という碎波の説明は、今でもよく覚えています。あの頃は、先生も学生も麻雀、花札（こいこい）、将棋を昼間からよくやっていました。とくにK先生は三打ちが好きでした。そう言えば、今はもうなき大運動会もありました。K先生を中心とした先生方も若く活気のあるすばらしい学科でした。

終宴近くに漏電のため停電となり、ローソクがともされました。また違った雰囲気でした。お陰で宴会代はホテルの好意でロハになりました。2次会は「だんだん茶屋」がもとあった場所へ移動し、23時すぎに次の再会を約束してお開きとなりました。松山で次に同期会を行うのは、定年を迎える頃の10年後でしょうね。みなさん、その頃まで元気でいてくださいね！



参加者：黒坂、高谷、馬場、古谷、竹内、藤田、小畑、西頼、河原 9名（順不同敬称略）

海洋工学科第6期生（1979年入学）同窓会

大谷 淳二・中岡 浩三（海洋58年卒）

日 時：平成22年11月20日(土) 18：30～

場 所：十五万石（松山市三番町2－8－4）

参加者：15名

平成22年11月20日に、私たち愛媛大学海洋工学科第6期生は、学び過ごした松山の地で同窓会を開催致しました。

大学を卒業して早いもので、27年が経ち、平成20年に大阪で同窓会を開催してから2年、ようやく我々が学び過ごした松山の地で同窓会を開催することができました。

当日は、関西、九州などから集まった11名のほか、松山に在住しておられる恩師、柿沼名誉教授、山口名誉教授、柏谷名誉教授、伊福教授に御参加頂くことができました。

した。

そして、それぞれの近況報告のほか、当時、工学部2号館北側の運動場で開催していた運動会やその時の仮装や借物競争等をはじめ、懐かしく・熱い思い出や、勉強、それ以上に没頭していたあの頃の〇〇〇話など、楽しい時間を持つことができました。

最後に下記の集合写真撮影、愛媛大学学歌斉唱をして、散会致しました。次回、2年後の再開を楽しみにしています。



前列左より、伊福先生、柏谷先生、柿沼先生、山口先生、油田
後列左より、奥、西崎、山田、大谷、細野、栗原、水川、田邊、佐々木、中岡

愛媛大学土木海洋会 昭和42年卒同期会報告

河野 徹（土木42年卒）

今回が3回目で前回が平成15年に開催して8年ぶりの同期会を平成23年8月20日（土）に松山市内の『すし丸』で1次会を開催しました。今回は川崎から篠原、前回も参加した梁田さんは成田から、同じく前回も参加した坂田さんは徳島より地元松山

の大門、広島から新宮、高知から川田、それに今年で81歳になられる地元在住の松木先生と私（河野）8人の参加でした。

卒業後44年を経て殆どの者の年齢は67～71歳で第一線を退き、悠々自適の生活をしているようである。

松木先生は髪もふさふさで、外見は同期会のメンバーと変わらないくらいお元気な様子です。今でも趣味の魚釣りに海外まで出かけておられるとの事、お元気である証拠でなによりです。

篠原は農地を借りて家庭菜園に徹しているようだ。梁田さんは第3の人生でNPOの副理事長をも今年で辞して幹事になり、時間的余裕が出来た様である。大門さんは教員生活をおえて、北海道一周ドライブ、去年は富士山登山。今年は屋久島に行き縄文杉がなぜ何千年も長生きするのかが分かったそうである。坂田は徳島県庁を辞して県の外郭団体に2年間勤務後、民間会社に勤務して今年の6月末に完全に退職したとの事である。新宮は第2の人生で関連会社に行きそこで2、3年営業関係の仕事をして現在は老人大学で趣味の勉強（？）をしているとの事。川田はダムの現場、高速道路の現場などを渡り歩き最後は高知事務所に勤務の後、関連会社に数年すごした後に現在は完全にフリーな人生で、時々現役時代取り扱った火薬学の講師として高知県内の若い人に講義をしているそうだ。

本報告書を書いている、私（河野）は相変わらず『いそがしや』で、今年も8月17日から松山に来て4泊5日を過ごしました。その間ミャンマーから愛媛大学の博士課程で学ぶ留学生の博士論文の公聴会、同窓会学内幹事会、同窓会総会など毎日の計画を消化した。その間、空いた時間で四国88箇所の残り寺16箇所をめぐりこの旅を完了した。この旅行中も顧問をしている会社の要請により、総合評価のプロポーザルの作成と有意義に松山生活をし、5日ぶりに帰広しました。

今後、老い先が短くなってくるので毎年でも再会しようという事になり閉会、次回は広島で同期会をもつ事になりました。次回は多くの同期生が参加できることを願っています。



平成23年度 愛媛大学土木海洋会 総 会 議 事 録

開催日時：平成23年 8 月20日(土) 午後 3 時～

開催場所：愛媛大学校友会館

出席者数：35名

議 題

議 長：河野 徹 会長

1) 平成22年度事業報告について

木下幹事長より、総会資料－ 1 に基づき、平成22年度中に実施された諸事業について説明がなされ、これらが全会一致で承認された。

2) 平成22年度決算報告について

木下幹事長より、総会資料－ 2 に基づき、平成22年度の決算報告がなされるとともに、この会計について大門監事より適正であることを認める旨の会計監査結果報告がなされ、これらが全会一致で承認された。

3) 平成23年度役員について

木下幹事長より、総会資料－ 3 に基づき、平成23年度役員（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

平成23年度の新役員は、以下のとおり。

○副会長：玉井 良二（土54）

○幹 事：白石 誠（土海11）

○評議員：高橋 正雄（海55）、橋本 克樹（環23）、本田 美紀（環23）

4) 平成23年度事業計画について

木下幹事長より、総会資料－ 4 に基づき、平成23年度事業計画（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

なお、同窓会活性化、会費増収のための意見が出され、事務局を中心に検討し、可能なものから実施することとなった。

5) 平成23年度予算について

木下幹事長より、総会資料－ 5 に基づき、平成23年度予算（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

6) その他

なし



平成23年度・愛媛大学土木海洋会総会（愛媛大学校友会館）

事務局だより

1. 会費についての内規

平成12年より70歳以上の会員の会費は免除することにしております。また60歳以上の会員は終身会費として会費を一括払いすることができるようになっておりますのでご活用ください。なお会員の方々の年齢は卒業年次により計算させていただいておりますことをご了承ください。

会費についての内規

1. 会費は、年額3,000円とする。ただし、70歳以上の会員の会費は免除する。
2. 60歳以上の会員は、終身会費として一括払いをすることができる。終身会費は、60歳以上65歳未満の会員に対しては、20,000円、65歳以上の会員に対しては、10,000円とする。
3. この内規の変更は、総会の議決による。

2. 会合への助成金制度

この制度は、同窓生の皆様に、同窓会活動を活発化していただくために設けられたものです。同窓生の親睦などの目的に活用していただきたいと思います。下記の細則2の提出物を添えてお申し込みください。事前のご相談もお受けいたします。

〈同期会・研究室同窓会・職場班会・地区同窓会などに対する助成金制度〉

助成金額：出席者会員1名当たり1,000円を上限とする。ただし、会員5名以上の会合で、助成最高額は50,000円とする。

上記助成金制度の細則

細則1. 助成対象

出席者の全員または一部が会員である会合に対し助成する。

細則2. 本部事務局への提出物

1. 案内状1部（土木海洋会への会費納入催促の文をなるべく記載のこと）

2. 最終出席者名簿 1 部（氏名、卒業学科・年、その他（勤務先、住所など）
3. 集合写真 1 枚（日付入り）
4. 住所変更の報告
5. 土木海洋会だよりへの投稿原稿

細則 3. 助成回数

同一組織による会合への助成は、年度内において 1 回とする。

上記の助成は、平成 9 年度より実施する。

3. ホームページについて

土木海洋会のホームページを開設しました。行事等の情報を掲載いたしますのでぜひご覧ください。支部行事、会合の案内等のホームページへの掲載を希望される場合は事務局までご連絡ください。

土木海洋会ホームページアドレス <http://www.cce.ehime-u.ac.jp/~dokai/>

4. 土木海洋会だよりへの投稿のお願い

毎年12月に発行しております「土木海洋会だより」への掲載記事を募集しております。

個人・グループの近況、活動報告、技術記事などを寄稿ください。掲載ご希望の方は事務局までご連絡ください。

土木海洋会

検 索

土木海洋会ホームページ

<http://www.cee.ehime-u.ac.jp/~dokai/>

メールアドレス

dokai@cee.ehime-u.ac.jp

愛媛大学工学部環境建設工学科ホームページ

<http://www.cee.ehime-u.ac.jp>